

館蔵資料紹介 No.26

濃尾大震災 わが国最大級の内陸直下地震に学ぶ

杉 戸 真 太



「結局のところ、東海地震はいつごろ起こるのでしょうか？」

一般の人を対象とした防災講演会の最後によく頂く質問です。地震防災の研究成果をできるだけ分かり易く工夫を凝らして講演にのぞんでも、みなさんがいちばん知りたいことはやはりこれです。東海地震に限らず、想定されている地震がいつ発生するのか、日付単位でわかるようになれば、地震防災の取り組み方は今とは全く違ったものになることが容易に想像できます。地震発生の日があらかじめわかれば、当該地域のすべての人々は広域避難地等でその日の地震が終わるのを待てばよいのです。その場合の被害状況は、“全潰家屋何十万棟、停電何百万棟、高速道路や新幹線等全線不通・復旧見込みなし、、、ただし、死者・重傷者はほぼゼロ！”といったようなことになるのでしょうか。つまり、地震災害とは、個人住宅や社会基盤施設が壊滅的な打撃を受けるが人的被害が皆無に近いというきわめて特異な自然災害である、、、こんな時代がくることは、当分あり得ないでしょうね。

東海地震は、予知の可能性のある唯一の地震といわれていますが、実は、歴史上ではこの震源域での単独の地震が発生した記録はありません。安政の東海地震（1854年）では紀伊半島沖から静岡県直下のところまでの断層が破壊し、その90年後の昭和の東南海地震（1944年）では静岡沖から直下の部分には破壊が至らなかったことから、この領域（つまり現在東海地震と呼ばれている部分）での地震の逼迫性がきわめて高いという解釈になっていることは、よく知られていることです。

発生の可能性の高い東海、東南海のような海溝型巨大地震に対して万全の備えを持つべく努力することは最低限必要です。しかし、我が国で活動度の高い大きな内陸活断層が最も多くある岐阜県の住民としては、個々の断

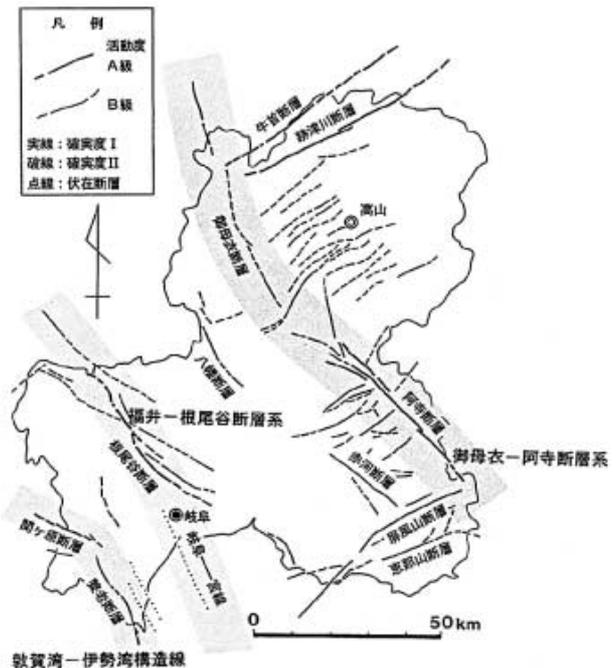


図 1 岐阜県域における活断層分布

層の地震発生確率はたとえ高くなくてもそれぞれの地域にとってもっとも脅威となる地震について、その震源断層の存在、地震被害の全体の状況と自分たちの地域の被災状況を理解すること、そして、個人、家族、地域レベルでできる防災対策を一つでも多く、すこしでも高めることがとても大切です。図 1 は、岐阜県域における主な活断層の分布を示したものです。一つ一つの断層の地震発生確率は決して高くはないですが、大きな断層がこれだけたくさん県内にあれば、内陸活断層地震に遠くない将来に遭遇するかもしれない、と思いませんか。

地震防災の重要性・緊急性を認識するには、なんとと言っても過去の身近な実例を正視することでしょう。幸い（という表現は適切ではありませんが）、岐阜県では明治 24 年 10 月 28 日の早朝に濃尾地震が発生しております。断層の長さは、6,000 人を超える死者をだした

1995年兵庫県南部地震の倍以上もあり、内陸地震としてはマグニチュード8クラスの最大級の地震でした。今後もこれ以上の規模の内陸地震は、まずあり得ないと言われているほどの大地震です。写真1は、岐阜市伊奈波神社の西方の状況で、多くの家屋が倒壊した様子がかがえます。岐阜市内でも非常に強い揺れであったことを示しています。この地震による死者は、約7,600人でした。工学部の能島暢呂助教授の試算によると、当時震度7の地域にいた人は約50万人程度ですが、仮にこの地震が現在発生した場合200万人以上になるものと予測されています。内陸活断層の再現期間（繰り返し発生の間隔）は数千年オーダーなので、濃尾地震の原因となった根尾谷断層については、当分というより一生気にする必要はありません。しかし、近くには養老断層や関ヶ原断層などがあるため、岐阜大学にとっても決して安心はできません。



写真 1 岐阜市伊奈波神社近辺
(濃尾震災地写真、此企所蔵より)

110年以上も前の出来事ではありますが、この濃尾地震の震災の状況については、様々な資料、文献が残されています。本学附属図書館には、震災直後の貴重な写真集や当時の新聞記事を収集・整理して震災基礎資料としてまとめたものがあります。また、市町村別戸口被害一覧表というものがあり、たとえば上加納、長良、早田、萱場、というような当時の町村単位での死者（建物倒壊と焼死の区別）や重軽傷者、建物被害個数（全潰、半潰、全焼、半焼の区別）の調査結果がまとめられています。これらを丁寧に調べることで、当時の詳細な被害状況がわかり、そこから得られる地盤条件による地域の震度の違いなどは、将来の地震によるこの地域の相

対的な被災状況の差異を高い精度で教えてくれるものとなります。

また、この地震の二、三日前に小地震があったものの、前兆現象と予感させるものはなく、新聞記事には、「此震災に逢ふ今日に至りて始めて其の前兆ありしを追想するのみ」とあります。後になってから「あれは、前兆現象だった」というものがたくさん出てくるのは、ここ数年の被害地震でも同様で、つくづく地震予知の難しさを物語っているように感じます。

岐阜市若宮町には、この地震で亡くなられた全県下四千数百人の震災死者台帳が保存されている震災記念堂が建っております。この記念堂は、当時の衆議院議員天野若円が中心となって、愛国協会の記念事業として建てたものです。平成2年には100回忌が催され、現在でも毎月28日は法要が営まれております。

各地域に存在する過去の悲惨な被害事例を真摯に受け止め、ある日突然来襲して取り返しのつかない甚大な被害をもたらす地震災害の軽減化について、常日頃から考え、実行するよう心がけたいものです。

なお、東海地震や東南海地震による東海地域の震度や液状化危険度の予測値を各県のご協力を得て岐阜大で算出しておりますが、これらの結果を郵便番号エリア単位で表示したものが下記 URL で見れます。近い将来には、県内の内陸活断層による予測結果も参照できますので、一度ご覧下さい。

<http://www.cive.gifu-u.ac.jp/lab/ed2/kensaku/>

【関係所蔵図書】

1. 岐阜県郷土資料研究協議会、明治24年岐阜県震災誌付録一、市町村別戸口被害一覧表、昭和53年
2. 岐阜新聞・岐阜放送、写真でみる濃尾震災 実態とその復興、1991年
3. 村松郁栄監修、市原信治著、写真集濃尾地震と根尾谷断層、昭和53年
4. 中京圏地震動観測連絡会、新聞記事にみる1891年濃尾地震被害の基礎資料調査 新愛知および岐阜日日新聞の記事整理、1994年

(すぎと まさた：流域圏科学研究センター長、教授)

医学部分館でのバイトを終えて

鈴木友希



平成 16 年 3 月末には大学病院と医学部の移転に伴い、岐阜大学附属図書館医学部分館は閉館となりました。実に何年の歴史を持っていたのか私はよく知りませんが、入学以来たびたび利用させていただいてきた私たちにはさみしいとも、もったいないともつかない複雑な思いがします。何も医学部分館に限ったことではないかもしれませんが、医学部分館はとても頑丈で気密性がよく、冷暖房も完備されていてとても快適な空間でした。1 階にはいつでも新聞が読めて、立派な壁画のあるエントランスと親切な職員の皆さんがいらっしゃる事務室、新刊雑誌の閲覧や文献検索、インターネットなどが利用できる書庫がありました。2 階には学生用と書閲覧室と製本された雑誌の書庫。3 階にはチュートリアルルームと視聴覚室。4 階には 2 階の学生図書を補って余りある単行本。中でも私たちにとって一番うれしかったのは 2 階の学生用図書の閲覧室です。2 階の閲覧室には職員の方が選んでくださった選り抜きの図書が壁面いっぱい並べられており、学生がお互いまわりを気にせず集中できる衝立付きの机がありました。私たちはここで授業の空き時間や、授業後などに調べものをしたり、レポートを書いたり、テスト勉強をしたりするのに利用していました。ここには学生の知りたいことに直結する図書や、学生がよく利用する図書が数多くあり、私は何かを調べたいと思ってこの部屋を訪れ裏切られたことはありません。またドクターになられた先輩方もよく利用されているのを見かけました。机のほうは満席で座れないこともしばしばでした。

私は 2 年ほど前から医学部分館のカウンターで受付のアルバイトをさせてもらっていました。アルバイトをしていると実にいろんな方がこの分館を利用されているのわかります。学部学生、大学院生、研修医の先生や、各科の先生方、他大学の学生や外の病院の先生、時には弁護士の先生などをお見かけしたこともあります。新しく岐阜大にこられた留学生の方を英語で案内しろといわれ冷や汗をかいたこともありました。(留学生の方の方が私たちを助けてくれましたが...) また前係長の宮崎さん、現係長の中齋さん(この館報が発行される頃には

「現」ではありませんが)、そして影の係長の藤本さんをはじめ職員の方はとても親切で、カウンターに飛び込んでくるさまざまな問題を快く受け止め、できる限りの対処をしてくださっているのがわかりました。学生の私には詳しいことはよくわかりませんが、分館の職員の方は医学書や医学雑誌のことをとてもよくご存じで、何も知らない私からみてもいろいろな先生方の様々な要望や要求に実に親切に精一杯対応されていたように思います。私ができるように利用する立場になったときも、こんなに親切な職員の方がいたらなんと心強いただろうといつも思っていました。また、学生が利用する図書をよく心得てくださり、人気のある図書を中心に蔵書を増やして下さったり、入れてほしいと相談された本をすぐ検討して入れて下さったりして私たち学生にとってもとても親切な図書館でした。さらに、いろいろな講座の先生方がご自身の執筆された本を寄贈して下さったり各講座で定期購読されていた雑誌を寄贈して下さったりして(私たちがアルバイト中カウンターに座っているときに持ってきて下さったこともしばしばありました。) 本当に充実した蔵書であると思います。そのほかに、職員の方々にはアルバイトとしても大変お世話になり、分館に本を借りに行くなど分館を利用するたびに声をかけてくださり、友達のように仲良くしていただいて本当に感謝しています。アルバイト以外のことでも相談に乗っていただいたり、生活の知恵を教えていただいたり、こんなに楽しいアルバイトはありませんでした。

はじめに述べたようにこの医学部分館は閉館し、6 月より岐阜大学図書館として本館と統合されます。分館としてはなくなってしまふこととなり、職員の方も散り散りになり、分館でのアルバイトもなくなってしまいますが、これからも今まで通り学生や先生方やそのほか多くの方にとって利用しやすいあたたかい図書館であってほしいと思います。

(すずき ゆき : 医学部 5 年)

平成15年度図書館統計

蔵書冊数 平成16年4月1日現在

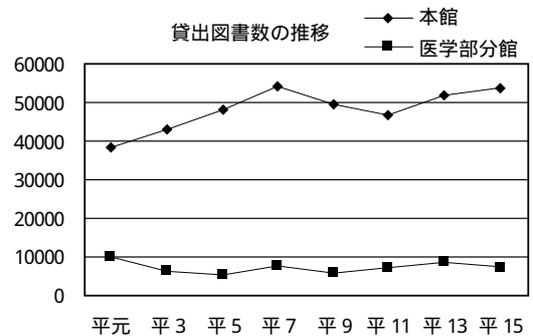
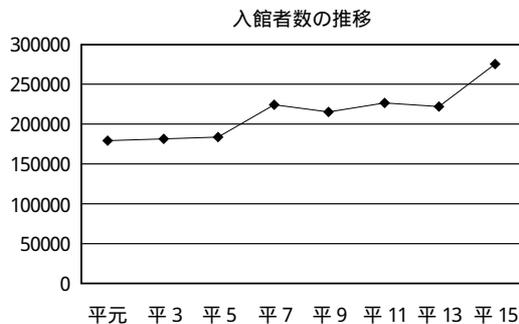
区分	和書	洋書	計
本館	518,451	222,888	741,339
医学部分館	59,225	75,524	134,749
計	577,676	298,412	876,088

雑誌種類数 平成16年4月1日現在

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	9,529	4,267	13,796
医学部分館	1,304	1,887	3,191
計	10,833	6,154	16,987

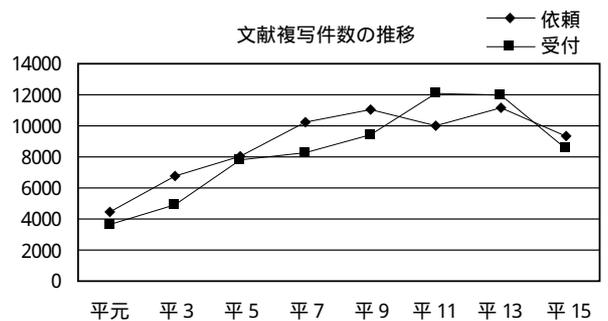
入館者数及び開館日数

区分	開館日数	入館者数			計
		教職員	学生	学外者	
本館	282	6,354	195,051	12,066	213,471
医学部分館	294	18,106	42,267	1,533	61,906
計		24,460	237,318	13,599	275,377



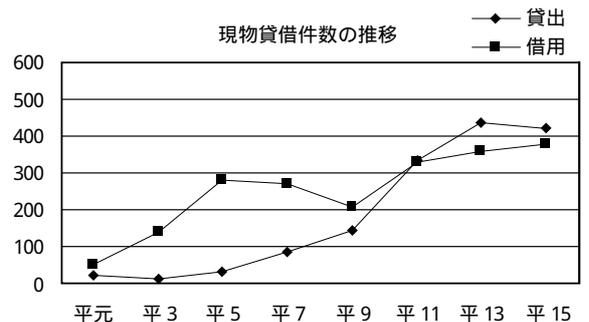
貸出冊数

区分	教職員	学生	学外者	計
本館	3,965	48,909	1,447	54,321
医学部分館	619	6,300	0	6,919
計	4,584	55,209	1,447	61,240



文献複写数 (図書館間相互協力)

区分	受付	依頼
本館	3,666	5,776
医学部分館	5,543	2,698
計	9,209	8,474



現物貸借 (図書館間相互協力)

区分	貸出	借用
本館	411	414
医学部分館	23	34
計	434	448

医学部分館の本館への統合と分館資料の配置について

医学部及び病院の移転に伴い、司地区の医学部分館も平成16年3月31日で廃止し本館へ統合されました。これにより、従来分館で行っていたサービスは基本的に本館で行っています。

しかしながら、現在の本館にはこれまで分館に配置していた資料の全てを収蔵するスペースがありませんので、本館の増改築が完成するまでの間、暫定的に以下のように資料が配置されています。

新着雑誌（2003年以降出版されたもの）	新・医学部7階の新着雑誌室
学生用図書	図書館本館3階
それ以外の資料（研究用図書及び2002年以前の雑誌バックナンバー）	旧医学部分館（司地区）

なお、新着雑誌室及び旧医学部分館に配置されている資料については、別途入館（室）カードが必要になる等の手続や制限があります。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先：資料サービス係 058(293)2191
 : 学術情報係 058(293)2193

職員の異動 平成16年3月～4月（学術情報部内の図書館関連）

異動月日	内容	氏名	新所属・職名	前所属・職名
3月31日	退任	正村静子		附属図書館長（医学部教授）
	退職	金原貴洋		附属図書館事務部長
	"	村上喜廣		附属図書館情報管理課専門員
4月1日	新任	森 秀樹	理事(研究・学術情報担当)(附属病院担当): 図書館長	
	転任	堀畑利治	学術情報部長	香川大学医学部事務部長
	昇任	中齋二三博	学術情報部情報サービス課課長補佐	附属図書館情報サービス課医学部分館図書係長
	配置換	宮崎直昭	財務部契約第一課図書契約係長	附属図書館情報サービス課学術情報係長
	"	上口正昭	学術情報部情報サービス課情報サービス係長	附属図書館情報管理課資料受入係長
	昇任	渡邊博子	学術情報部情報サービス課学術情報係長	附属図書館情報サービス課(命)主任
	"	吉岡 文	学術情報部情報管理課総務係主任	附属図書館情報管理課(総務係)
	"	福永由美子	学術情報部情報サービス課学術情報係主任	附属図書館情報サービス課(学術情報係)
	配置換	福島俊博	学術情報部情報管理課(総務係)	経理部主計課(監査係)
	(育休代替)	棚橋美和	学術情報部情報管理課(目録情報係)	附属図書館情報管理課(資料受入係)
	(育休)	北野敦子	学術情報部情報管理課(目録情報係)	附属図書館情報管理課(資料受入係)
	配置換	藤本美代子	学術情報部情報サービス課(情報サービス係)	附属図書館情報サービス課(医学部分館図書係)
	新規採用	宮西幸子	学術情報部情報サービス課(資料サービス係)	